

○青年問題研究会 対象 青年 内容 青年問題についての話し合い ○第十一回福島県青年産業研究発表大会 対象 青年 内容 産業研究発表	婦人会館 33年1月9～11日 2泊3日 福島農蚕高校 33年2月16日17日 2泊3日
---	---

## 第四節 婦人教育をどうすすめたか

婦人学習が今までの大集団主義の集りから、一人一人の婦人の生活や、考え方を向上させていくという、個人の成長に重きをおいた、小集団活動に移行しつつあることは事実であるが、またその反面に、大集団の長を特権階級的に取りあつかい、小集団活動は、団体をこわすものであるかのごとく解釈している前近代的な人もいないわけではない。

官制の団体にしようとする一部勢力、政治的手腕と権力にものをいわせて、多数会員のうえに腰をすえようとする人等、この中であって、本県の婦人教育はどういうの角度からおすすめていくべきか。問題は沢山あったが、ともかく

① 婦人の小団学習活動をすすめていく  
② 婦人学級を充実していく

この二つの目標をもって、従来の固定された幹部から新しいリーダーの養成のために、若い層にねらいをおいた指導者講習会や、お母さんたちの勉強機関である婦人学級をもつと「公」のものにしていく

くための努力などがはらわれてきた。

### 目標にむかって努力した

(1) 小集団活動のための新しいリーダーの養成

県内を七か所に分けて実施した。参加者数は約五〇〇をかぞえ、いずれの会場も、ほとんど新顔であり、しかも熱心に自分たちのグループをのばしていこうとする意欲にもえていた。特に本年度は、県婦人団体連合会自身が単位団の民主的な育成のために、会長研修会を計画したので、会長以外の所にねらいをおいたことは参加者とも非常によろこばれた。

(2) 婦人学級研究集会

婦人学級はここ数年来、各地で開催されてきているが、その量的なひろがりに対して、質的な学習の深みまでは考慮されていぬ現状であった。ましてや地域の人々の理解のもとに「公」の機関として親しまれていたので、県下を四か所に分けて、文部省委嘱の婦人学級および社会

学級の協力を得て学校の先生、公民館の主宰、地教委の社会教育担当者およびその他の婦人学級を世話する人々とともに、婦人学級の基本的な考え方およびその進展策について研究をすすめた。

(3) 文部省委嘱婦人学級、社会学級のあゆみ

文部省が特別に助成している学級が六つある。

- 福島市清水地区社会学級
- 双葉郡浪江町野野婦人学級
- 石川郡石川町石川婦人学級
- 耶麻郡塩川町姥堂婦人学級
- 信夫郡吾妻村野田若妻学級
- 西白河郡大信村信夫婦人学級

それぞれ学級は特徴をもち、その地域の問題にとりくんでいる。ある学級は若妻のグループをうみだしているし、またお母さんたちの勉強グループを二八もって常時の学習活動がすすめられ、その力が「青年と婦人の家」をつくったりしている。そのほか、先生方が陰になり日向になりつつお母さん方の勉強をささえて下さっている。ある先生は、子供たちの教育効果はこの学級の成長に比例するといっていた。この地域のお母さん方とはともに手をたずさえて、子供のための遊び場をつくり、また子供のよい相談相手として、日々の精進をおこたらない。

(4) 調査や資料の作成をどうしたか

全県下の婦人学級や婦人団体がどのような実態のもとにすすめられているのか。そのことをとおして、問題点を究明していくための調査を実施した。

資料としてはつぎのものを作成し、地域の婦人教育をすすめるための参考とした。

- (イ) 婦人の学習のために(その一)
- (ロ) 婦人団体・学級の調査分析など
- (ハ) 婦人の学習のために(その二)
- (ニ) 婦人学級の方向と実践状況など
- (ホ) 新しい生活を築くために
- (ヘ) (地区の社会教育計画・媒人の小集団活動の方向など)
- (ニ) 話のすすめ方「海野昇雄著」

(学習の方法、特に話し合いによる学習の諸技術など)

その後婦人の学習はどのようなひろがりを見せているか

県単独の事業としては、数も少なく、その予算等も全国最下位のグループに所属している現状なので、このささやかなものを最上に利用し、自分たちのものとしてすいこんでいくために、参加した人々を中心とした、各種の研究グループの生れてくることを心から願った。そしてそのための資料の準備なども最善をつくしたわけであるが、それらが十二分に活用され、また活用されつつあるとは確信をもっていい切れない。

しかし、婦人学級も五〇〇余をかぞえ、話し合いを主とする一人一人の向上をめざしたものに変わられつつあるということである。その中でも今まではほとんど